

茨高  
茨中

# 春 秋

発行  
茨高・茨中 P T A  
代表 紺谷 智則  
編集  
茨高・茨中文化広報委員会  
水戸市八幡町16-1  
電話 029(221)4936  
茨高・茨中公式ホームページ  
<http://www.ibaraki-jsh.ed.jp>  
印刷 いばらき印刷㈱



遊  
び  
心

PTA 会長 紺谷 智則

日頃より茨城高等学校・中学校の P T A 活動にご理解と、ご協力をいただき誠にありがとうございます。今年に入り戦争や自然災害、食糧不足、電力不足、終息が見えないコロナ禍と、人類にとつての脅威がますます増え、注目をしています。昭和の終わりの頃に出会った大学の恩師とのエピソードを紹介したいと思います。



大学二年の時に教養学部から工学部に移り、そこでとても面白い T 教授に出会いました。時代背景はバブルが最高潮で東京の土地でアメリカ全土を購入できるとか、ロックフェラーセンタービルを日本企業が買収したり、修学旅行先のニューヨークでティファニー本店に大勢の女子高生が押し寄せて買物していたり、今の時代では考えられない状況でした。また、優秀な人材を確保したい企業が、学生に奨学金として何百万円を支給したり、内々定を一人の学生が数十社受け取ったり非常に学生優位でした。そのため、大学生は大多数が卒業できる最低限の勉強で遊び惚けていました。

T 教授の初回講義での第一声

一度も叱責された記憶がありませんし、逆に「今回の失敗は君にとつて一番の財産」と褒めていただきました。T 教授の「遊び心」は「ゆとりやしゃれけのある心」を含め、「ひとを没頭させる、枠から飛び出すための思考」でした。

最近「イノベーション」という言葉を耳にするので、ご存じの方も多いと思いますが、「イノベーション」とは「モノや仕



## 自分の感受性くらい

校長 梶 克治

詩人、茨木のり子が静かな注目を浴びているといえます。二〇二二年一月には NHK クローズアップ現代で「茨木のり子、個」として美しく「放映されました。二〇〇六年に亡くなった詩人が、没後十六年を経て再注目されるのは異例のことといえるでしょう。コロナ禍に疲弊した社会が、彼女の声を欲しているのかもしれない。詩集の重版が続く、海の向こうの韓国でも、その詩はハンダに翻訳され人々に愛されているといえます。

「自分の感受性くらい」は、高校の国語の教科書にも掲載された、茨木のり子を代表する詩のひとつです。発表されて約半世紀、平明で率直なことが、厳しい叱責の口調をとりながら、

組み、サービス、組織、ビジネスモデルなどに新たな考え方や技術を取り入れて新たな価値を生み出し、社会にインパクトのある革新や刷新、変革をもたらすことですが、これに「遊び心」が必要と多数記事に書かれております。令和の今必要とされている事が、昭和に教わった「遊び心」だった事に非常に驚きました。(二二八号につづく)

優しい励ましの響きをとまなつて、今なお読む人の傍らに寄り添い、前に進む勇気を与えてくれます。情報があふれる現代、それらを読み解くメディアリテラシーの重要性が高まっています。膨大な情報の海で真偽を見きわめ、おびただしい事実の中から真実を汲み取るうとするとき、「感受性」が試されます。信じられるものは何かを正しく判断するには、心のアンテナをみずみずしく、しなやかに保つことが必要です。



# 高校 クラスマッチ

9/16

高二クラスマッチ優勝

高二C 高村 沙那

普段よりも活発なコミュニケーションセッションやクラスの団結が感じられるクラスマッチでした。最後のクラスマッチを優勝という形で終わることができて嬉しい反面、終わってしまった寂しさもあります。ひたひたなか総合体育館での開催に向けて一生懸命取り組んでくださった生徒会や先生方、ありがとうございました。

総合順位

<3年生>	1位C組	2位D組	3位B組
<2年生>	1位A組	2位H組	3位C組
<1年生>	1位A組	2位B組	3位G組



季節外れの猛暑がクラスマッチと共鳴していました。僕はフットサルでミスをしてしまい、キーパーでありながらハンドを2回やらかしてしまいました。クラスマッチで優勝できたのは本当にクラスみんなの活躍があつたのだと思います。三月に行われるクラスマッチもこのクラスで優勝できたらなと思います。

高一クラスマッチ優勝

高一A 軍地 響



今回A組が優勝することができ、とても嬉しく思っています。自分のクラスだけでなく他クラスとも楽しみながら戦うことができ、仲間と共に頑張る喜びも実感しました。中々思い通りに行事が行えない中、大変楽しいクラスマッチを企画して下さいました生徒会の皆さん、先生方、本当にありがとうございました。

高一クラスマッチ優勝

高一A 西 杏樹



# 中学クラスマッチ

9/16

### 総合順位

- △ 三年生 V 一位 B 組・D 組
- △ 二年生 V 一位 A 組
- △ 一年生 V 一位 A 組
- 三位 C 組
- 三位 B 組
- 三位 D 組
- 四位 A 組
- 四位 C 組
- 四位 D 組
- 四位 C 組

### 中ニクラスマッチ優勝

中三B 奥田さくら

先日、茨中生にとって初めての運動系クラスマッチが開催されました。開催にあたりB組は学級旗を作ることにしました。生地が購入が遅れたため製作期間が三日でしたが、素晴らしい旗を作ることができ、とても良い思い出になりました。旗の制作指示を出してくれた滑川先生、布を買ってくれた田中先生、手伝ってくれた五人、クラスマッチ関係者の先生並びに生徒の皆さん、ありがとうございました。

中三D 田中 俊成

まず、今年もクラスマッチが開催されたこと、本当に嬉しく思いました。そして今回は私達が入学して初めて運動系種目も含めたクラスマッチが行われました。初めての体験でとてもわくわくしたのを覚えています。結果、私達のクラスが、B組との同率優勝ができて本当に嬉しかったです。クラス全員が一生懸命になって取り組んでくれたことでよりクラスの絆が深まり、良い思い出になったと思います。今回クラスマッチを開いてくれた生徒会の皆さん本当にありがとうございました。

### 中一クラスマッチ優勝

中二A 大谷明日香

新型コロナウイルスが流行しているなか、私達にとって初めての盛大なクラスマッチとなりました。クラス全員で一致団結し、綱引きでは先生方も生徒も熱狂していました。クラスマッチを通してより一層クラス全員の絆が深まったと思います。後期も、絆と団結力で二連続優勝を目指して頑張ります！

### 中一クラスマッチ優勝

中一A 新田 久美

私が思う一年A組の長所は「仲間を思いやる気持ち」が強いことです。試合の中には、延長戦に持ち込まれた苦しい場面もありましたが、そのたびにお互いがお互いを励まし合い、心を奮い立たせ、やつと掴んだ称号が「クラスマッチ優勝」なのです。その称号を得るために頑張ってくれた「仲間」に感謝したいです。



# 高二 研修旅行

高校二年学年主任 秋田 拓郎

高校二年生は四泊五日で広島・京都・奈良に行つて参りました。二年ぶりの研修旅行は「まずは行くこと」が目標でしたが、いざ行つてみて、現地で観たもの・ガイドさんの話を聞いて考えたこと・友人と過ごした時間はかけがえのないものとなりました。実現に向けて尽力してくださった全ての方々に改めて感謝申し上げます。

## 研修旅行実行委員長

高二G 千田 結奈

私にとって研修旅行は大きな挑戦でした。当日も「自分で務まるのかな」と不安と緊張しがありました。ですがJTBの方や先生、友達と多くの人に支えられました。終えたとき安心感より達成感のほうが強かったです。この経験を経て責任、支え合う大切さを学ぶ大きく成長することができました。



高二A 井坂 文亮

広島原爆の悲惨さを知った資料館見学、京都ならではのスイーツを食べまくった別荘別荘、奈良の迫力ある東大寺の盧舎那仏像を見た寺院巡り、どれも最高の思い出でした。また長期の宿泊によりクラスメイトの意外な一面にも気づきました。僕らのクラスの委員長はスマホを失くしやすいことか…。



高二E 柳 莉子

コロナ禍にも関わらず無事終える事ができ、嬉しく思います。友達や先生方と同じ時間を共に過ごす事ができたことは、私にとってかけがえのない喜びです。何にも取って変わらぬ素敵な思い出を有難う御座いました。「一緒に黙っていることは素敵だ。もつと素敵なのは、一緒に笑っていることだ。」ニーチエ。



高二B 海老根彩希

まず研修旅行を成功させる為に動いてくださった方々ありがとうございました。広島では戦争がどれだけ無意味なものかを学び、京都では足が取れそうになるほど歩き、奈良では金剛力士像や奈良大仏の迫力を感じ、心に残る様々な経験ができました。どれも最高の思い出です。五日間本当に楽しかったです！



高二F 加藤 樹

コロナ禍が始まって以来初めての実施で、クラスメイト皆の期待が高まっていたため、ずつと楽しいムードでクラスの団結力は一段と深まった。一番印象に残ったのは、広島市の平和記念資料館。今では、語り手も少なくなってしまう、広島市の被爆という目を背けてしまいたくなるような歴史を、広島という環境や保管されてきた資料によって、情報として吸収するだけでなく、感情を通して深く学び直すことができた。



高二C 鈴木 瑛人

海外旅行が無くなり、中三の時のように研修旅行自体が中止になってしまわないかという不安もありましたが、無事に奈良・京都・広島に行くことができて本当に良かったです。コロナ禍で制約の多い僕達の高校生生活ですが、お陰様で最高の仲間達と一生の思い出を作ることができました。



高二G 沢畑 天嶺

鮮烈な印象を受けたのは広島原爆投下の際に撮られた当時の写真の数々である。衝撃的な写真の数々は戦争を知らない私たちに十分であり、改めて戦争について勉強するべきだと思つた。次に京都の清水寺の観光である。事前の下調べだけではわからない、ふとした瞬間の夕日が差し込む清水寺はとてきれいであった。次はもつと歴史を学んでから京都に訪れたいと思つた。



高二D 萩野谷万葉

歴史や文化に触れながらみんなで過ごした五日間はとても有意義なものでした。広島原爆ドーム、京都の清水寺、奈良の東大寺。想像をはるかに超える存在感に衝撃を受けました。また、関西や京料理などその地域独自のものを体験することもできました。またひとつ高校生活の思い出が増えました。



高二H 海原万由香

広島原爆ドームや平和記念館では争いの恐ろしさを感じ、いつも通りということの大切さを再認識しました。京都・奈良では歴史的建造物を見学し、クラス全員や班のメンバーと共に深い歴史を感じることもできました。この有意義な経験を今回限りではなく次回につなげていけるようにしたいです。



# 中三研修旅行

## 研修旅行II

### 「非日常」の大切さ

中学三年学年主任

長谷部将司

中学三年生は十月十二日から三泊四日で奈良・京都を訪れました。入学時からコロナに追われた中学三年生にとっては初の宿泊行事で、待ちに待った瞬間でした。当日は天候にも恵まれ、全行程を順調に消化することができ一安心しましたが、何より彼らの最終日の表情を見て、皆が充実した時間を過ごすことができた実感しました。生徒達には今回の旅行で得た「何か」を、これからの学校生活の中で大事に育ててもらいたいと思います。



## 研修旅行実行委員長

中三D 高塚 文音

私達は十月十二日から十五日にかけて奈良・京都に研修旅行に行きました。私が特に面白かったのは能楽堂での能の鑑賞体験です。能楽堂は思ったより狭く、面白い狂言や、迫力のある能を楽しむことができました。また様々なお寺へ行き、同じ時代でも人それぞれ色々なものを信じ、生きていたことが感じ取れたような気がします。三泊四日という長い期間を友達と過ごすのは、コロナ禍で様々なイベントが潰れた我々三年生にとって大きな思い出になりました。また、地域の方々と文化に触れることでそこに住む人々や長い歴史について学べたと思います。



中三A 柳田 晴輝

ここ数年、コロナ禍で行けなかった研修旅行に行くことができました。入念に計画して頂いた先生方、研修旅行委員の方々、有難うございました。この研修旅行では多くの名所に行くことができました。奈良の町並みは少ししか見れませんが、やはり昔の名残があつて良い所でした。更に、友達の間で仲良くなることでより興味などを知ることができました。このような貴重な経験を生かして、これからの将来に繋ぐことができたらいと思います。



中三B 新川 実夢

電車を下車すると、奈良時代。七五二年に聖武天皇が建立した東大寺で、盧遮那大仏を拝見。約十六m、見上げると大仏様と目が合い無病息災を祈願。次は、平安時代。九五〇年前「皆に等しく幸せな場所とは、どんな物だろう」との想像から平等院鳳凰堂が、一〇五二年藤原頼通より建立。建物を正面から見ると鳳凰が翼を広げている様で、美しい。池に建物が映り「あー綺麗だ」と感嘆。友達と古代の歴史に共感。先生方及び関係者の皆様に感謝します。



中三C 高松慶太郎

空が澄み清々しい秋を感じる頃、私達は初の宿泊旅行となる、奈良・京都への研修旅行に行きました。このコロナ禍という中で私達はあらゆる行事が中止となつてしまいました。その中で初の宿泊行事となつた為、私の心に深く刻まれました。この研修旅行を通じて、京都・奈良という歴史深い町での多くの『本物』を知ることができました。また、様々な活動を経て、クラスの絆が深まった気がしました。これらを含め、一生の思い出に残るものとなりました。



中三D 田中 俊成

今年、無事に研修旅行に行くことができ、本当に嬉しかったです。奈良と京都では日本の伝統や文化に触れることができました。この修学旅行での一番の収穫は、世界遺産や、重要文化財の数々に触れたことで、歴史の重さを感じられたことです。タクシー研修では、自分たちで決めた京都の行ってみたい場所を回ることができ、美味しいものもたくさん食べることができ、とても楽しかったです。この修学旅行で、友達との絆もより深まり、最高の思い出ができました。



# グローバル エンゲージメントプログラム

英語科・国際教養コース

原 健一

八月一日～三日の三日間で、Global Engagement Programを実施しました。UC Davisの先生がアメリカからプログラムを進行し、東京大学大学院の留学生たちが対面で作業を誘導するハイブリッドプログラムで、中三～高三の四十六名が参加しました。アフリカ、アジア、欧米の様々な国々出身の留学生が、自分たちの国の現実について語ってくれたのが印象的でした。三日間英語漬けになって英語力を伸ばすと同時に、SDGsを題材に世界の様々な現実を学んだ有意義なプログラムでした。

中三C 斎藤 優和

私は、グローバルエンゲージメントプログラムを通して、挑戦する姿勢の大切さを実感しました。外国人の方とコミュニケーションを取るの想像以上に大変で、最初は単語が出てこなかったり、意見を伝えられなかったりしました。ですが、頑張って話そうとしているうちに、言葉がスラスラと出るようになりました。グローバルエンゲージメントプログラムは、英語だけでなく色々な事を学べた良い機会だったと思います。

高三C 雨ヶ谷湧星

このプログラムは、UC Davisの藤田斉之先生が主催となり、プレゼンテーションやディスカッション能力の向上を目指し、すべて英語で東京大学大学院の留学生八名と一緒に活動しました。今年を受験生なので、参加するか迷いましたが、留学生とSDGsの「質の高い教育をみんなに」について学び、各国の教育に問題点や解決策を模索する活動を通して、新しい知識を培うとともに、よりグローバルな視点や価値観を習得することができました。



# 医学コース

医学コース 高畠 修一

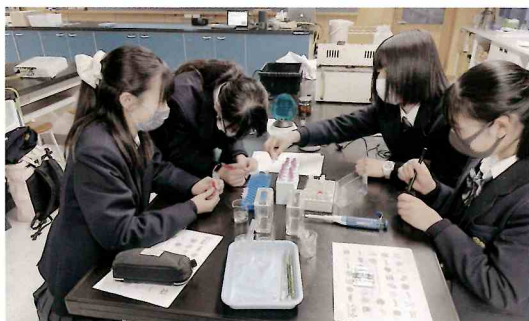
「医学コース」は、「医歯薬外部連携講座」を進化させ、二〇一九年に発足しました。中三から高三まで、学年に応じた講座を設定しています。チーム医療のワークショップや、大学の先生・研究者に終末期医療、感染症対策、臓器移植のお話や薬学実験をさせていただきました。近年、水戸医療センターと連携協定を結ばせていただき、ドクターヘリの見学や縫合体験実習もできました。医系論文作成や小論文・面接対策なども行っています。本物に触れ勉強への意欲を高めることができるコースです。

中三B 奥田さくら

私は医学コースに入って改めて命や健康の大切さについて考えることができました。他にも授業では学ぶことがないような生体リズムやチーム医療、心臓の働きについて学びました。人間が生まれてくることは奇跡に等しく、当たり前のように当たり前にあることに感謝しながら、将来の理想像に少しでも近づけることができるよう勉強を頑張りたいと思います。

高三E 雲藤 陸

医学コースでは、多くの講師の方々から医療に纏わる様々な講義を受けました。これらの経験から、現在における医療の取り組みや課題を理解し、自分が目指す将来の輪郭をはっきりと描くことができたと感じます。



# 中二林間学校

中二学年主任 作山 友孝

九月二十九日(木)より、二泊三日の日程で福島県猪苗代・会津方面において林間学校を実施しました。茨城中学校の伝統行事であった磐梯山登山は、震災以来十一年ぶりの復活ということもあり、期待の中にも不安が入り混じる中での開催となりました。

ふたを開ければ、三日間を通じて雲一つない最高の秋晴れに恵まれ、初日は五色沼の美しさに息をのみ、飯盒炊爨では自分達で作ったカレーの美味しさに笑顔があふれました。二日目の登山では、一步一步を踏みしめて到達した磐梯山山頂からの景色に感動し、夜はクラス対抗クイズ合戦で大いに盛り上がりました。最後にオリジナルの赤ベこもお土産になり、さわやかな秋空の下、大満足の林間学校となりました。



林間学校実行委員長

中二C 野村 吉颯

夏から秋へと季節の移ろいが感じられてきた中、チャレンジとドキドキがたくさんに詰まった林間学校、夏が戻ってきたと思わせるくらいアツい三日間でした。そこでは、五色沼トレッキング、飯盒炊爨、磐梯山登山、赤べこづくりといった、どれもメインなのかわからないくらい盛りだくさんの行事がありました。初日の飯盒炊爨では、話を聞いて実際に作って片付けまで汗をたらしながら精一杯頑張りました。あの時に食べたカレーは今まで食べたものなかでも常軌を逸する美味しさでした。限界を超えたなと思ったのは磐梯山登山です。自分の出せる力を精一杯出し切りました。登山中も「頑張ろう!」と声が聞えたり、手を貸してあげる人の行動を見るだけで元気が湧いてきました。登山が終わる最後に写真を取ったときのみんなの溢れ出る達成感とちよっぴり疲れた顔が目には焼きついています。楽しいこと山盛りだったのでまだ物足りない感じがします。とにかく最高の三日間でした。





ハン・ガヨン

こんにちは。六月二十五日付けで日本に留学することになったハン・ガヨンです。実は初めて日本に来たばかりの頃は、韓国と似ている日本にいたことが実感できませんでした。しかし生活をすればするほど韓国と違う点が見えてきたし学校に通い始めてから私が日本にいるということが実感できました。学校生活の初期には毎日が緊張し、慣れない言語ですべての授業を受けるのが大変でした。しかし、クラスメートが先に近づいてきてくれて、たくさん助けてくれたおかげで、今はよく適応しています。学校の授業は全体的に見れば韓国と似ていますが部活動だけは違いました。韓国では大学のための



ハン・ガヨンさん(右)

数学、経済、科学等の部活動が中心だったとすれば茨城高校は運動部の割合が高く、みんな積極的に取り組むという点で驚き、すごいなと思いました。その他にもクラスマッチ、野球応援など韓国ではやったことのない様々な活動をしてワクワクもしました。私の考えでは日本と韓国は似たような文化が多くて一般的な生活での大変な点は大きくありませんでした。今回の留学を通じて茨城県を初めて知り、私が住んでいたソウルに比べてきれいで静かなので歩くたびにいつも楽しかったし、観光地中心に通っていた旅行と違って実際の日本人の生活を見ることができてよかったです。これから残りの留学期間中もっと多様な日本文化に接してみたいと思いをたくさん作っていききたいです。

### 第20回 PTA校外研修

PTA役員 本川 りさ

創立九十五周年となる十月三日、少し汗ばむ秋晴れの中、三十七名の会員の皆様にご参加いただき、校外研修会を実施いたしました。今年度は、茨城大学水戸キャンパスを見学し、ときわ邸M-GARDENで昼食をいただきました。

新型コロナ感染予防のため限られた活動となりましたが、三年ぶりに研修会を実施することができ、茨城大学、関係者及び参加者の皆様には心より感謝を申し上げます。来年度は、安心して実施できる状況で、より多くの方々にご参加いただければ幸いです。

茨城大学では、大学の概要や入学選抜試験についての説明を受け、パンフレットには載っていないお話も聴くことができました。

本校卒業生の講話については、コロナ禍の受験勉強、大学生活及びご両親の関わり方など大変参考になったという声が多数聴かれました。立派に人前で話す姿にとっても誇らしく感じましたという感想もありました。

千波湖を眺めながらのときわ邸での昼食もとても好評で、食後の懇親タイムは、リラックスした雰囲気の中で情報交換や交流を行える場になったと思います。



### テーマ別課題

#### 「はじめてのスペイン語」

金子 泰子

高校一年生十二名、中学三年生二名が参加しました。前半は、食事などのスペイン文化やスペイン語のアルファベット、男性名詞・女性名詞の区別などについて学びました。後半は、スペイン語でレストランでの会話を練習しました。スペイン語はほぼローマ字読みなので日本語に似た発音の単語もあり、日本人にとって親しみやすい言語です。生徒たちもスペイン語の会話を楽しんでいました。英語以外の言語にも興味を持って欲しいと思いました。

#### 「茨城庵」

野口 綾音

夏真っ盛りの八月一日、求道館にて開催しました。普段なかなか触れる機会の少ない茶道に親しんでもらおうと、本年度二度目の開催です。京都への研修旅行を控えた中学三年生、日本文化に興味のある高校一年生の計十名が参加しました。茶道の歴史や特徴の説明を聞いた後は、お菓子の食べ方、お茶の運び方を学び、プチお茶会にも挑戦。どの生徒さんも真剣に取り組んでいました。



### 芸術鑑賞会

中三A 濱田 湊斗

今回、このような形で行えたことを良かったと思います。ここ何年かコロナウイルスの影響でできておらず自分たちは今回が初めてでした。その中でこの演劇を通して一つの芸術というものに触れられてよかったと思います。演劇にも映画などと同じようにストーリーがあると思います。演劇ではそれをその場の限られた場所とでも再現するのは素晴らしいと思います。また、理解しやすいものでも良い演劇だったと思います。また演劇を行う「役者」というものについても学びました。俳優や女優さんや自分たちで話の流れを作るのは素晴らしいなと思います。



### 職業教育講演会

高二C 森田琉太郎

毎年行っている社会人講師の講演会。今回も様々な講師の方が来てくださり私たちの人生において興味深い貴重な話をたくさん聞かせてくださいました。私がつと思ったことは、チャレンジ精神が大切であるということです。私の経験を振り返って考えてみても、勇気を出してとりあえず全力でやってみることが意外と大成功したりするものです。これからも迷ったときはチャレンジしてやることを大切にしていきたいと思っています。



# 部活動紹介

## チア(野球部)

高三E 矢部 美翔

今年の野球応援はコロナの影響で空白の二年間があり、経験者がいないため、基盤を0から作っていくという状況の中で行われました。右も左も分からず何度も厚い壁に直面しましたが、応援の基盤を作ることに加え、チアユニフォームの作製と応援委員のTシャツのデザインと素材の変更を行うことができました。また、試合本番でも吹奏楽部の演奏、生徒たちのメガホンの音、応援団とチアの応援やつい湧き出てしまう歓声等が一体となって応援

することができました。ご協力して下さったみなさん、本当にありがとうございました。そして監督、マネを含む野球部のみなさん、感動をありがとうございました。



## 水泳部(中宇)

中三A 横田 皓介

水泳部部長の横田皓介です。水泳部は、基本週三回、大会前はそれ以上練習を行っています。その結果、水泳部男子はリレー種目でいくつかの大会新記録を更新し、昨年に引き続き関東大会に出場することができました。また女子も水戸の新人戦で優勝しました。これも厳しくも愛情あふれる荻谷先生のご指導のおかげです。また、僕達がもう一つ恵まれているのは、当校には屋内プールがあり天候に関係なく練習ができると

いうことです。ただ、この屋内プールは、十月末までしか使えません。できれば冬の期間も泳ぎたいです。これからも僕達の後輩が頑張るので、応援の程よろしくおねがいします。



## 弓道部(中宇)

中二B 小林 怜瑚

私達中学弓道部は二年生十五人、一年生十五人の計三十人で活動しています。活動は主に、毎週水、木、土曜日に練習をしていて、水、土曜日は学校の弓道場、木曜日は県武道館で練習しています。木、土曜日は高校との合同練習なので、高校生とコミュニケーションが取れます。顧問の先生は二人で、一人は段も取得されているベテランです。未経験者でも、先生が一から丁寧に教えてくださり、楽しく上達することができま

す。私達は、今年行われた大会で県大会に出場するも、惜しくも関東大会を逃してしまいました。来年こそは関東大会、更には全国大会にも出場するべく日々の練習に励んでいます。私達と一緒に、体と精神を鍛えませんか？



## 化学部

高二B 徐 輔賢

化学部は中・高合同で活動しています。活動内容として、普段は各自やりたい実験を。春頃は文化祭、夏から冬にかけて、つくば Science Edgeや高校生の科学研究発表会@茨城大学の発表に向けて各班ごとに分かれ実験やポスターの作成をしています。この部活の特徴として、理系の人も文系の人もいること、他学年と交流できること、自由度がある程度高く、一週間に一回金曜日だけなので他の

部活とも兼部できます。文化祭では食べ物以外で来た人も楽しめるような出し物をしています。夏休み期間中は班別実験をし、中学生は自由研究をしています。



## 吹奏楽部

高二A 鈴木 結菜

こんにちは！吹奏楽部です。私達は、中学生・高校生合わせて計六十九名で活動しています。活動日は水曜日を除き毎日、水曜日は自主練日となっています。課外活動などで部活動をお休みすることも可能です。主な本番は、夏のコンクール、秋にある横浜での大会、冬の定期演奏会があります。この他にも、月に一度程度本番があったりします。活動日数が多いので、学業が疎かになってしま

うのではと思われれると思いますが、そんな事はありません。多くの部員が、空き時間を有効活用して、良い成績を収めています。ホームページやInstagramにも活動の様子が載っているの



## テニス部(中宇)

中二B 宮口 有虹

硬式テニス部は二年生十八人、一年生二十人の計三十八人で活動しています。男女混合で行う事が多いです。活動日は決まっていませんが週三、四回で、月曜日と土曜日はありません。平日はアダストリア水戸で休日は扶桑のテニスコートで活動しています。アダストリア水戸までは歩きやバスなどで行き、十六時または十七時から十八時まで行います。今年の私学大会では女子団体で県二位を取りました。北関東大会では惜しくも三位となり、全国には一步届きませんでした。硬式テニ

ス部の顧問の先生はテニスが上手く、優しくわかりやすく教えてくれるため練習がとても楽しくできます。テニス経験のない人でも安心して上達することができるので、ぜひ硬式テニス部への入部お待ちしております。

